

ひとり情シスのIです。

今日は、第4回の補足です。ネットワークを調査するときには、各配線がどのようにつながっているかを記録する必要があります。

一覧を作ることを並行して、次ページの例のように、どの機器とどの機器が接続されているかを、その機器のIPアドレスと一緒に作っておきます。この図は何を使って作ってもいいですが、個人的にはPowerPointを昔から使っているため、スライドの大きさをA3にして、以下の素材を使ってネットワーク構成図を書きます。

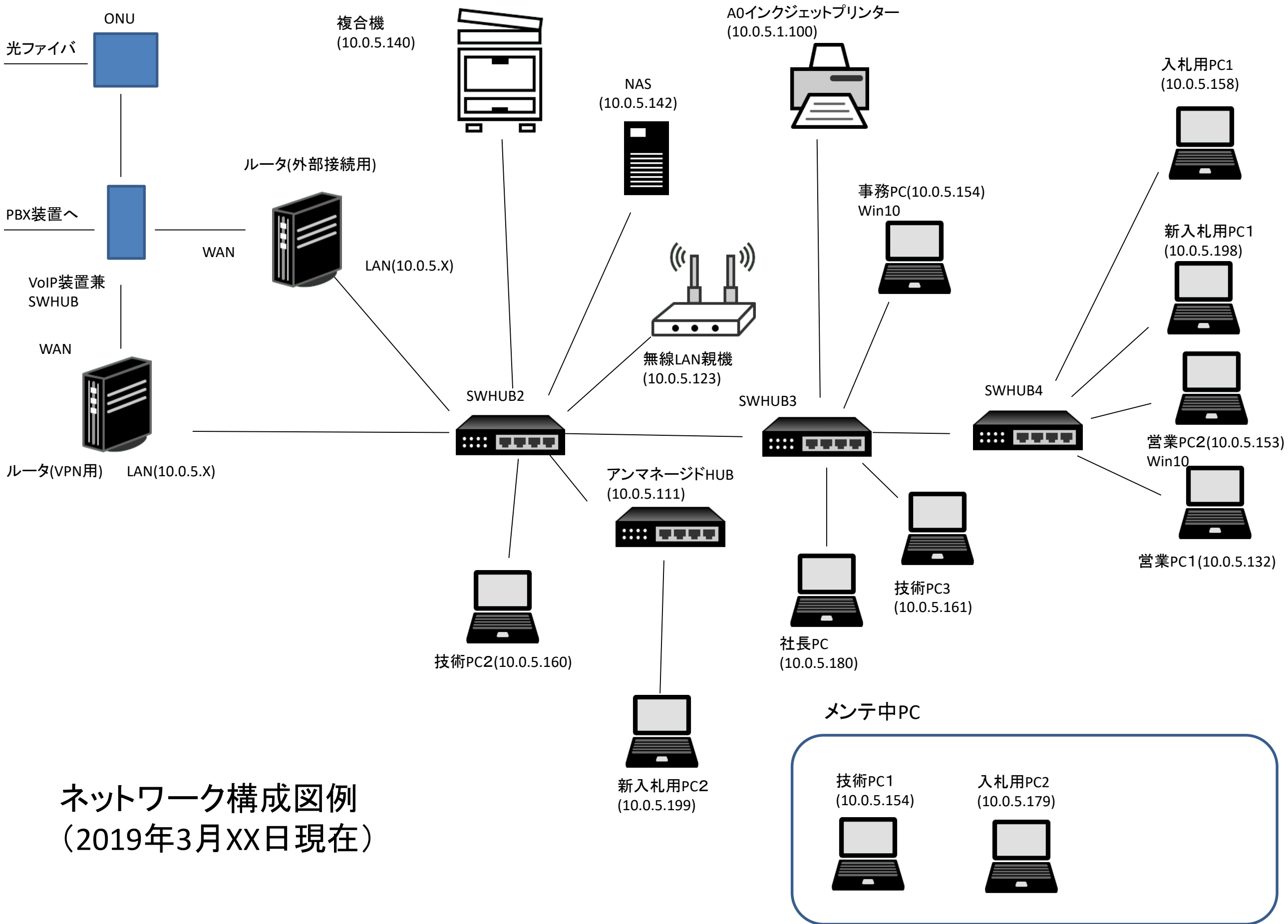
無料素材サービス（商用利用もOK）

<https://sozai.cman.jp/>

機器の横には名称とIPアドレスを書いておきます。こうしておくと、LANの配線がどのようにつながっているか分かるようになります。少し規模が大きくなると、こんなものでは済まなくなりますが、VLAN使うわけでもなし、この程度で十分でしょう。

あとは、機器にPC名（または機器名）とIPアドレスを書いたラベルを貼ると、後々のメンテナンスの時に役に立ちます。ついでにケーブルの根元に、接続先を書いておくと、後々机をひっくり返さなくても、どこにつながっているかがわかります。

今日は短いですが、そんなわけで、続きはまた明日。(I)



ネットワーク構成図例  
(2019年3月XX日現在)